

令和2年度 静岡大成高等学校 学校評価書

<評価基準(達成度)> A 80%以上 B 50%以上80%未満 C 30%以上50%未満 D 30%未満

評価対象	評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての成果と改善点	評価	ご意見
目指す教師	1. 厳しく、あたたかく、生徒と同じ位置で指導する。	①良いことと悪いことをはっきりと示す。 ②生徒の人権を尊重し、子供扱いをしない。力に頼った指導をしない。	A	体罰の報告や相談件数は0であった。学校現場は生徒に迎合しがちな傾向にあるが、特に善悪の判断はぶれずに指導していきたい。	A	・学校行事の中止、PTA 行事の中止等で、生徒・保護者の満足度への影響はあったと思われる。校祭祭の開催に向け、工夫や準備が必要になると思われる。 ・今年度はコロナの影響で今までとは違う経験ができたかと思います。新たに始めたことで、今まで日常的に行っていたことを見直し、より良い方向を見つけていってほしいと思います。 ・オンライン授業で人間関係が希薄にならない様に生徒との関係を築いてほしい。 ・コロナ禍という初めての機会ですが、逆にそれをチャンスと考えることが必要なのではないでしょうか。こんな中で殆どが A ということで素晴らしい評価をしていますが、更にこれらを実践していくことが大切ではないでしょうか。今後の更なる活動に期待しています。
	2. 率先垂範を実行する。	①目指す生徒のあり方を自ら実行し、正しい言葉遣いで話をする。 ②先頭に立って生徒を導き、生徒と一緒に汗をかく。	A	教員が先頭に立って導いていく部分と生徒の主体性を引き出す部分のバランスについて、今後とも研鑽を積んでいきたい。		
	3. ビジョンを持って一生懸命努力する。	①できない理由を探す前にまずやって見る。 ②ぶれずに、あきらめずに、最後までやりきる。	A	オンライン授業を開講した。休校を経験したことにより、対面授業や教室に生徒がいることのがたみを再認識した。次年度に活かしたい。		
	4. 私学人としての自覚と理想を持っている。	①学校の発展を共通の目的とする。私学だからできること、私学だからやらねばならぬことを考え実行する。 ②保護者との良いリレーションを構築する。	A	学校行事の中止などにより、生徒・保護者の満足度は少なからず減少した。次年度はその満足度を回復させるためにも奮起したい。		
	5. チームとしての教員集団である。	①前向きで明るい性格になる。仲間の良いところを見つけ、其のコミュニケーションを図る。 ②大変なことがあっても常にポジティブな言動をする。	A	コロナ禍の中、学年や分掌の枠を超え全教職員でその対応に奔走した1年であった。次年で以降もこのチームワークを継続していきたい。		
学習指導	1. 基礎学力を身につけた生徒の育成	①授業に真剣に取り組ませる。 ②授業中の机間巡視や課題点検、小テストを実施する。 ③必要な場面で義務教育内容を取り入れた授業を実施する。 ④「わかる授業」「楽しい授業」「身につく授業」の実践。	B	パソコンやプロジェクターなどのICT機器を駆使し、視覚にも刺激を与えながら「わかる授業」を実践した。学び直しについても全体の学力は向上したが、義務教育段階の学習に慣れている生徒が各学年数名存在する。高等教育を受けたレベルに到達させ、卒業させたい。	B	・学習環境が大きく変わった一年だったので初めての経験に先生、生徒共に戸惑いも大きかったと思います。来年度に向け改善していけたら良いと思います。 ・休校期間があったりして、なかなか大変な時期もあったようですが教育で大切なことは生徒とどう接するかということです。なかなか難しいことですが、これをチャンスと捉えて今後、新たな取り組みを見つけていかれることを期待しています。
	2. 学習習慣を身につけた生徒の育成	①折に触れて進路に関する話をし、学習に対する目的を持たせる。 ②学習に対する取り組みや結果に対し、褒めることで自信を持たせる。 ③宿題を与え評価することによって学習習慣を身につけさせる。 ④学習習慣を身につける手段の1つとして自学ノートを取り入れる。	A	コロナによる休校期間中も学習支援アプリを利用し、メールで課題や授業動画を配信した。自学ノートも課す中で、家庭学習の習慣化を成し遂げることができた。定期テストに対する取り組みの甘さを改善していきたい。		
	3. 学力の3要素である思考力・判断力・表現力や、主体性・多様性・協働性を身につける授業の研究および実践	①自己研修や教科会での研究をおこない、実践につなげる。 ②教科指導目標の達成をめざした授業を展開する。	B	全教科の指導目標に「学力の3要素の向上」を盛り込み、常に意識をして授業を展開した。継続することで結果につなげていきたい。		

令和2年度 静岡大成高等学校 学校評価書

<評価基準(達成度)> A 80%以上 B 50%以上 80%未満 C 30%以上 50%未満 D 30%未満

評価対象	評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての成果と改善点	評価	ご意見
進路指導	1. 生徒一人一人が自己を正しく理解し、自らの進路を主体的に選択決定できるように、進路の達成に向けての指導の充実を図る。	①各段階における適切な進路指導・情報提供を行う。 ②生徒の進路希望を把握し、その情報を教員間で共有する。 ③進路希望実現やそのための学力向上の方策を実施する。 ④各種検定の受験やコンテストへの参加を促進する。	A	やはりコロナの影響が大きかった。進学については、県外の大学への進学を希望する生徒が減少し、就職では観光・サービス業の求人が激減した。(卒業生の合格・内定率は98%) 1年次からの進路意識の強化に取り組みたい。	B	・生徒も保護者も悩ましい進路選択になりました。来年度に向け準備が必要と思われます。 ・コロナの影響は大きかったですね。これからの時代はもっと変化していくと思います。就職進学も時代の先を見ての指導をお願いします。 ・進路指導は本人の希望だけでなく、各家庭の経済状況が絡んでくると思われます。この点の配慮をお願いします。
生徒指導	1. 建学の精神/校則に基づいた指導	①学校生活のリズムを作るような働きかけをする。 ②自分たちの学校をきれいにしようとする気持ちを育てる。 ③一生懸命やろうという気持ちにさせる。 ④生徒一人一人と向き合う時間や機会を増やす。	A	休校期間が長引き基本的な生活習慣を確立するための初期指導が遅れたが、大きな問題は起こらなかった。また、休校による生徒のメンタルヘルスも心配されたが、スクールカウンセラーの協力も得ながら対応することができた。 次年度は帰属意識の強化を図りたい。	A	・コロナ禍により、子供の家庭に居る時間が増えたと思います。家の手伝い等、コミュニケーションをとる良い機会になりました。社会に出る前の躰を家庭でしっかりしなくてはと改めて感じました。 ・時代の変化、保護者・生徒・教師ともに現代はいろいろな考え方があると思います。それをまとめていくことはとても困難です。こんな時こそ諸先生方の協力体制が必要だと思う。 ・SNS等、通信機器が進んでいる状況では、何が良いことで、何が悪いかを教えることは、かなり難しいことですが、どういう時代になろうとも常識やモラルは一緒だと思います。指導の徹底をお願いします。
	2. 安全・安心な学校づくりの徹底	①正しい判断と行動ができるように常日頃から働きかけをする。 ②相手を思いやる気持ちを育てる。 ③スマートフォンなどの情報機器の適切な使用を指導する。	A	人間関係のトラブルの9割はSNSが絡んでいると言ってもいい現状ではあるが、問題の早期発見・早期対応により生徒の進退に係るような問題に繋がることはなかった。生徒が多様化し、社会の変化も激しい中ではあるが、常識やモラルの定着についてはふれずに指導していきたい。		
	3. 生徒指導のスキルアップ	①生徒指導において必要な力を身につける。 ②社会情勢の変化に対応した生徒指導を身につける。	A	体罰や暴言の根絶が浸透し、感情的に叱るのではなく、諭す指導が定着してきた。その中で、協力的ではない保護者の対処について、特に若い教員の中には苦慮する場面も見られた。生徒指導と合わせ保護者とのかわり方についてもスキルを上げてきたい。		
広報活動	1. 全教職員が広報スタッフとして募集活動に協力し、生徒と教師が誇りを持てる学校として地域に奉仕貢献する。	①教員一人一人が広報活動を意識し、本校発展のために尽力する。 ②地域に根差した開かれた学校として地域貢献活動を行う。 ③明るい挨拶や喋った言動、主体性のある生徒スタッフを育成する。	B	各種イベントについて、コロナ感染防止対策を取る中で例年と違ったスタイルで行ったが、全教職員の協力のおかげで、滞りなく実施することが出来た。地域貢献活動についても、月2回の奉仕活動を生徒が中心となって実施した。 来年度は、さまざまなイベントにおいて生徒の主体性や自主性を引き出していきたい。	B	・コロナ禍において難しいことと思いますが、積極的に工夫して貢献活動を今後も実施してください。 ・新聞等で貴校の活動をよく目にします。今後も引き続き活動していくことを期待しています。